

足立健康友の会

# かばら支部ニュース

第34号  
2011年5月19日  
☎: 3605-5594  
<http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/>

## かばら支部総会報告

### もっと仲間をもっと地域へ

かばら支部の第10回総会が四月二四(日)かばらデイサービスセンターで開催され、五十七人が参加しました。

私たちがばら支部は、仲間増やしを一生懸命に行ってきた。特に昨年度は、目標の80名を大きく上回る119名の方々に新たに会員になっていただきました。



職員と友の会の一層の協力が実を結んだものです。

かばら支部はまた、サークル活動も大変盛んです。総会では各サークルの代表がそれぞれ日頃の様子を生き生きと伝えました。

歌声サークルこもればは月2回の例会のほか、歌声喫茶の開催にも力を入れており、一人ぐらしの方が大きな声で歌って元気をもらえるようにしています。

かばらふれあい川柳は昨年50回目を迎えました。職員の協力も得て「選評」しています。

書道サークルは矢作先生の指導のもと、気持ちを込めて書に打ち込んでいます。パソコンサークルは月2回、メンバーが変わりながらもそれぞれが興味ある分野を学んでいます。活発なサークル活動に比べると、

かばら支部では班会の開催が少なかったのですが、東和班が月1回の定期開催をやるうと決め、役員のお宅を借りて、折り紙や布を使った手作り品、それにお楽しみ料理作りなど工夫をこらして楽しい会にしています。

中川や辰沼、綾瀬でも班会が開かれるようになりました。

会員を含め、地域には一人暮らしの方が多くおられます。今年度も健康を守り人と人のつながりを一層強めるにはどうすれば良いかを考える年にします。皆さんの御意見・御要望をお寄せください。

総会では、第2部の催しとして元神戸新聞記者(現在、健和会グループ職員)の山田さんに民医連が行っている大震災被災地での医療介護支援の様子を報告してもら



路大震災も経験しており、今回の震災とどこが違うのかについて

淡神阪はんさ田山た。しまい

て話されました。

神戸は都会での家屋倒壊と火災が多くの人命を奪ったのに対し、今回の震災は地震に続く大津波が漁村の人々を襲いました。来るかもしれない関東大震災は、神戸型であり、どのような備えをするべきかについて考える機会となりました。報告 久保正雄

## 「第10期蒲原健康講座」の実行委員会がスタートしました

今年で10回目を迎える大好評の「健康講座」の実行委員会がスタートしました。例年は6月から実行委員会を始めますが、今年は2カ月も早くしました。

それはよりたくさんの方に参加して頂きたい。そのためにはどのようなテーマにしたら良いか皆さんと一緒に考えながら進めたいと思ったからです。今までに延べ人数で1185人の方が参加されています。その方々や会員さんに「もう一度聞きたいあのテーマ」「こんなテーマをぜひ」「高先生にこんなテーマで」というような声を集めるアンケートを実施することになりました。5月の「下町の健康」にアンケートを折り込みま

## 看護・介護の相談会

いつ 毎月、第3木曜日10時  
どこで 小児科診察室  
普段、受診しても先生と相談する時間がなく困っていること・わからないことなど相談ができます。

6月は16日10時

すのでご協力をお願いします。現在、実行委員会ではテーマとして検討されているのは、(ア)「長寿食」「健康食」の話で講師は管理栄養士さん (イ)「原発事故」問題から関心が高まっているので「放射線の人体への影響」(エ)歯の健康について (オ)「高先生の話」テーマは未定」などです。

これからアンケートに寄せられた声を参考にしながら企画していきたいと考えています。是非要望をお寄せください。そして今から楽しみにして頂けるような「健康講座」にしたいと思っています。

実行委員 清水扶佐子

## おつかれさまでした

役員として長い期間、友の会のために活躍された方が3名今回退任なされました。有難うございました。

退任者 薄井 吟治氏 佐藤 美紀子氏  
戸村 末野氏

## 故郷の明暗

# 大震災後の被災地を歩く

私の生まれ故郷は宮城県の七ヶ浜町と言うところです。地理的には宮城県のほぼ中央部。仙台市と石巻市の間に塩釜市、多賀城市などがありますが、その二つの市に隣接した小さな町。松島湾を形成する片割れの半島、それが故郷の七ヶ浜町の場所です。

その故郷は今回の東日本大震災

### 退任にあたって

間もなく八十歳になるので、今回役員を退任します。19年間友の会のおかげでたくさんの方々を知り合え、様々に新しい経験も出来ました。

役員としては力不足でしたが、みなさんに支えていただき、楽しく張り合いを持って過ごせました。ありがとうございました。

万三先生の区長当選と院所の新築が強く記憶にのこっています。

この数年来三役を中心に役員会が充実し、めざましい活躍が続いています。いつその発展を願っています。

薄井 吟治

で未曾有の被害を受けました。皆さんもテレビや新聞でその模様を見聞きしたと思います。そして目を覆いたくなる様な惨状に胸の痛みを感じた人も多かったのではないのでしょうか。

私の場合、あれだけの震災なのに現地地暮す兄弟、親戚それぞれ身内の誰一人犠牲者が出ませんでした。「五月の連休になったら見舞いに行く」と約束をしていたので行ってきました。五月初旬の三日間、廃墟と化した故郷を訪れた時、様々な思いが過ぎりました。

その中で私の心の大半を占めたのが震災時の明暗はどこで分かれるのかと言うことでした。これはこれまでの私の人生で一番、考えさせられたことでした。それもこの大震災に襲われた故郷の光景と被災した人々の語りを聞いたからかも知れません。

それらの話をこの友の会ニュースの紙面をお借りして「故郷の明暗」と言うタイトルで何回か書き綴って行きたいと思えます。

### 孫に救われた爺婆の命

大災害があると被災地にいる親戚への連絡が容易につかず焦ります。今回の大震災でも故郷がそのど真ん中と言うことで心中穏やかではない日が数日続きました。特に連絡が取れない大津波来襲地域に住む兄弟のことは、安否が確認できるまで心配の種になりました。昭和十六年生れの直ぐ上の姉がそれでした。

海岸からは二、三キロ奥まった平野部に住居があったのですが、連絡が取れた四日後に分かったことは、テレビの報道通り「回りの住宅は土台だけ残り跡形もない」と言うことでした。姉の家は辛うじて残ったものの「他家の廃材と戸棚の食器、そして得体の知れない数々の物がヘドロに埋まって手がつけられない状態だ」とのことでした。

姉の家の隣近所でも津波に流され命を落とした何人かの人の話を聞きました。姉夫婦は無事でした。同じ場所での明と暗。

よく話を聞いてみると、津波に巻き込まれずに済んだ訳が分かりました。

姉の言い分では「私は地震が収まってから様子を見に行っても良いのにと止めにかかったけど、強引に車に乗せられて・・・」と笑いました。

義兄は地震が起きた途端、血相

## 歌声喫茶のお知らせ

日時：6月5日14時～17時

場所：蒲原ディサービスセンター

会費：500円（お茶付き）

☆生伴奏をバックに懐かしのうた希望の唄を歌いませんか！

☆東日本大震災の支援活動の報告もあります。



小江戸 川越の街 散策の旅

期日 6月20日（月）

を変えて、姉の手を引き車に飛び乗ったと言いました。「地震で家がつぶれ、孫がタンスの下敷きになっているかも知れない。助けに行く・・・」と言う理由で。そして波打つ道路をもろともせず、地震の最中に車を運転して高台にある娘の家をめざしたそうです。姉は続けて「もし、私の言う通りに行いたら逃げ遅れて今頃、津波に流されて行方不明か死んでいた・・・」と苦笑していました。義兄はテレビで流される大津波警報の映像を

### 足立区長・区議会議員の選挙結果について

見ないまま、娘の家に急行したという事も分かりました。そして姉夫婦は高台に孫が住んでいたことで、津波から逃れる意識が無くとも、命拾いをしたのでした。

—— 次回に続く ——

担当 嶺岸宏

5月15日（日）に足立区長・区議会議員の選挙の投票が行われました。区長選挙につ

いては臨時の役員会で「脱原発・子供を守ろう」と言うスローガンを掲げ立候補した吉田万三さんを役員会として推薦しました。結果は健闘及ばずでしたが、万三先生が訴えたことは足立区のみならず、今後の日本の行方を考える際に重要な問題提起になったと考えます。また、区議会議員選挙では役員と職員の有志で「はたの昭彦後援会」を立ち上げ、その勝利をめざして奮闘してまいりました。結果は4,150票（33位）の成績で新議席が勝ち取られました。この当選で私たちが友の会の要望を区議会に反映させることができるようになりました。

かばら支部 三役